

妊娠期における夢のなかの感情についての検討

名島 潤慈・山根 望*

An Examination of Feelings in Dreams during Pregnancy

NAJIMA Junji and YAMANE Nozomi*

(Received January 15, 2008)

キーワード：妊娠期、妊婦の夢、感情

はじめに

女性特有の夢としてはまず、月に1回訪れる月経の期間中にみる「月経夢」(menstrual dream)がある。月経夢というのは例えば、「最初は水のなかを楽しく泳いでいるが、そのうち気分が悪くなり、最後にはお腹が痛くなって目が覚める」(20代の女性)といったものである。次に、「妊婦の見る夢」(pregnant woman's dream)として、受胎から出産直前までの約10か月に及ぶ妊娠期において見る「妊娠にまつわる夢」(pregnancy-related dream)がある。この「妊娠にまつわる夢」のなかには、女性が性行為をして受胎した前後に見る「受胎夢」(conception dream)や出産にまつわる「出産夢」(birth dream)といったものが含まれる。その他の女性特有の夢としては、流産した後や中絶後に女性が見る夢がある。中絶後の夢というのは例えば、「(長年の間、治療薬としての向精神薬を服用していたためにやむなくお腹の子どもを中絶した後)夢のなかで子どもを育てている。そして、夢を見るたびにその子どもが大きくなっていく。最初は目の開かなかった赤ちゃんが後には3歳の子どもにまで大きくなる」(20代の女性)といったものである。死んだ子を葬り去る代わりに夢のなかで育成していくというこの夢の意味はかつて吟味したことがあるが(名島, 1980)、一人の男性カウンセラーとして女性の性とか母性といったものをつくづくと考えさせられた夢であった。

妊娠にまつわる夢に関しては、これまでいくつかの先行研究がある(Van de Castle & Kinder, 1968; Gillman, 1968; 武内, 1982, 1984; Maybruck, 1989, 1990; Blake & Reimann, 1993; Van de Castle, 1994; Ablon, 1994; 的場, 1998)。われわれもまた、最近いくつかの論文を書いている(山根ら, 2006; 原田, 2006; 山根, 2006; 名島, 2006)。ちなみに的場・森谷(1998)は、特に育児初期に焦点をあてた女性の夢の研究も行っている。

ところで、妊娠期にある女性、つまり妊婦の夢のなかにはどのような感情が見られるのであろうか。かつて鑪(1979)は20歳代の3人の初産婦の夢を調査して、「若い3人の母親の283個の夢のなかの出産に関係した夢には、一つとして楽しい夢、希望に満ちた明る

*山口大学東アジア研究科

い夢はなかった。それぞれ個性的ではあるが、妊娠や出産の『不安』や恐れを示しているものばかりであった。(中略) 子供を持つということには大きな喜びと期待があるだろう。しかし、子供を身ごもり、胎児が成長し、出産に到る過程は、不安に満ち、ある時には恐怖に満ちたものではないだろうか」と結論づけている。

鑪が言うように、初めての子どもを身ごもっている初産婦の夢のなかに不安や恐れ、例えば、「途中で流産してしまうのではないか」「はたして五体満足の健康な子どもが生まれるのか」「妊娠中に夫の関心が別の女性に移ってしまうのではないか」「子育ての間は働くことができないが、そうなると経済的に逼迫するのではないか」などといった思考に伴う不安や恐れがうかがえるのは納得のいくものである。しかしその反面、喜びや楽しさといった快感情がどの妊婦にもまったく見られないのかどうか、喜びや楽しさ以外の感情は見られないのかどうか、約 10 か月という長い妊娠期の各時期によって現れる感情に違いがないのかどうか、初産婦 (primipara) の夢と経産婦 (multipara) の夢のなかの感情に違いはないのかどうかといった多くの疑問も湧いてくる。

本稿では、妊娠期における夢のなかの感情に関する先行研究を吟味し、あわせて、妊娠期における夢のなかの感情を吟味するさいの問題点について整理してみたい。ちなみに、感情にまつわる用語としては「感情」「情動」「情緒」などがあるが、本書では感情に統一したい。

1. 妊娠期における夢のなかの感情に関する先行研究

まず武内 (1982, 1984) は初産婦と経産婦を対象にして、妊娠時期 (初期～16 週、中期 17～28 週、後期 29 週～) の 3 回と出産後 (1～4 か月) の 1 回、計 4 回の調査を行った (被調査者数は、妊娠初期 17 名、妊娠中期 33 名、妊娠後期 14 名、出産後 16 名)。夢に現れた感情は Hall&Van de Castle (1966) を参照して、①怒り、②不安・恐れ・心配、③喜び、④悲しみ、⑤混乱の 5 つと、⑥不確定という計 6 つに分類された。

ここで Hall&Van de Castle の感情分類を紹介しておく、それは、①anger (怒り)、②apprehension (不安・心配)、③happiness (幸せな気持ち・喜び)、④sadness (悲しみ)、⑤confusion (混乱・狼狽) の 5 つである。以下、5 つのカテゴリーのそれぞれについて詳述する。

①の anger のカテゴリーには、annoyed (いらいらする)、irritated (じれったくていらいらする)、mad (頭にきた)、provoked (腹が立つ)、furious (怒り狂った)、enraged (立腹した)、belligerent (喧嘩腰の・敵意に満ちた)、incensed (激怒した)、indignant (憤慨した)、peevish (いらついた・いらいらした)、infuriated (かんかんに怒った) などが含まれる。

②の apprehension は fear (恐怖)、anxiety (不安)、guilt (罪悪感・後ろめたさ)、embarrassment (きまり悪さ) などと関連したもので、ここには、terrified (こわがる)、horrified (ぞっとする)、frightened (ぎょっとする)、scared (おびえる・びくびくする)、worried (心配な)、nervous (そわそわする・はらはらする)、concerned (気になる)、panicky (あわてふためく)、alarmed (ぎくりとする)、uneasy (不安で落ち着かない)、upset (混乱した・おたおたした)、remorseful (後悔する)、sorry (すまないと思う・残念に思う)、apologetic (申し訳ない・すまない)、regretful (くやむ)、ashamed (恥ず

かしい) などが含まれる。

③の happiness には、contented (満足した)、pleased (うれしい)、relieved (ほっとした)、amused (楽しい)、cheerful (快活な)、glad (喜ばしい)、relaxed (くつろいだ)、gratified (心が満ち足りた)、gay (愉快的な)、wonderful (すてきな)、elated (鼻高々の・意気揚々とした)、joyful (愉快的な)、exhilarated (心がうきうきする・わくわくする) などが含まれる。

④の sadness には、disappointed (がっかりした)、distressed (苦しくてつらい)、hurt (心が痛む)、depressed (うつうつとした・しょげた)、lonely (独りぼっちでさびしい)、lost (途方に暮れた)、miserable (みじめでわびしい)、hopeless (絶望した)、crushed (打ちひしがれた)、heartbroken (悲しみに打ちひしがれた・悲嘆に暮れた・とてもつらい) などが含まれる。

⑤の confusion には、surprised (予期しないことにびっくりした)、astonished (信じがたいことに大いに驚いた)、amazed (びっくり仰天した)、awestruck (畏怖の念に打たれた)、mystified (けむに巻かれたような・当惑した)、puzzled (当惑した)、perplexed (まごついた)、strange (奇妙な気分)、bewildered (うろたえた)、doubtful (あやふやな・不信感の)、conflicted (相反する気持ちがせめぎ合う・煩悶する)、undecided (どちらとも決めかねる)、uncertain (気分がうつろう・気持ちがはっきりしない) などが含まれる。

ところで、武内の調査の結果分かったのは次のことであった。①妊産婦 (妊婦と産婦) の夢には不安や恐怖の夢が多い。②初産婦は経産婦よりも混乱の夢 (子どもが生まれてとまどうなど) が多い。③夢のなかには喜びの夢も出現しているが、その場合、初産婦では昔の友人や家族との楽しい会話といった、退行的な時間のなかでの楽しさが、一方経産婦では子どもの性が期待通りでうれしいといった感情が見られる。④夢内容にみられる特徴として、子どもが生まれる (生まれた) 夢には不安・喜び・混乱の3型がある。

武内によれば、妊娠中に多く見られる不安夢は、子どもを持つということの大きな喜びと期待の裏側に潜む不安や心配を拡大して明らかにしてくれる。そして、そのような不安夢は来るべき事態への準備を促す働きをしているものもあるため、警告夢としての役目を果たしており、今後の妊娠生活、出産、および育児を考える上で積極的に活用することができる。初産婦の場合、子どものイメージがまだ現実的でないこともあって混乱や驚きを引き起こすが、経産婦の場合には「上の子と遊んでいる子ども」といったように、子どものイメージがより具体的・現実的なイメージとして夢のなかに現れることが多いという。

88人の妊婦 (妊娠週数7週から42週) に質問紙調査を行った Blake & Reimann (1992) によると、67%の妊婦が少なくとも1週間に1回は妊娠に関する夢を見ており、そのうち53%の妊婦が妊娠を喜ぶ夢を見ていた。その反面、妊娠に関する夢を見た妊婦のうち37%の人が妊娠や赤ちゃんに関する恐ろしい夢を見た。全体として、25%の妊婦が妊娠や赤ちゃんに関する恐ろしい夢を見ており、そのうち15%の妊婦が同じ恐ろしい夢を2回以上見ていた。17人の妊婦が妊娠や赤ちゃんの夢を見て憤りを感じていた。また、7%の妊婦が赤ちゃんの死ぬ夢を見ていた。妊娠に関係した夢を見た妊婦と見なかった妊婦との比較をした結果、妊娠に関する夢を見た妊婦は妊娠後期で、期待しているほど夫からの情緒的支援を受けていない女性であった。また、初産婦で睡眠障害がある場合、妊娠に関する夢をよく見るという結果が出た。これらのことからすれば、妊婦の夢は妊婦が意識下ではぼん

やりとしか認識していない恐怖やその他の感情を明らかにし、また心理学的に重要な情報を含み持っていよう。

的場（1998）は武内と同様 Hall & Van de Castle（1966）の分類法を用いて、1人の健康な初産婦（出産時 29 歳）の夢のなかの感情について分析した。妊娠 7 か月から出産までの間に報告された 23 個の夢のうち約半分が「妊娠・出産・赤ちゃん」に関する夢で、出産後 0 か月から 5 か月までに報告された 19 個の夢のうち 90%以上が「妊娠・出産・育児に関する夢」であった。出産までの 23 個の夢における感情では、不安・恐怖（30%）、喜び（35%）、混乱・驚き（48%）の 3 つが際だっていた。的場は、不安・恐怖の夢は、ただ単にそのときどきの夢主の不安を反映しているだけでなく、来るべき事態に備えるといった側面を有しているのであろうと推測している。混乱・驚きが多かった理由としてはこの時期が特に心理的・身体的に急激に変化する時期であること、喜びの夢もかなり多く見られたのは夢主が強く妊娠を望んでいたからであるとの的場は述べている。

原田（2006）は、妊娠・出産・育児期における女性の心理的プロセスを明らかにするために、ある 1 人の初産婦（出産時 25 歳）を対象にして、妊娠 5 か月から出産後 3 か月までの計 8 か月にわたって縦断的な夢の調査を行った。調査方法は被調査者に夢を記録してもらい、それと平行して、記録された夢についてのインタビューを 1 か月に 2 度ばかり行った。その結果、計 55 個の夢が聴取できた（妊娠期の夢は 40 個）。原田は 55 個の夢を第 1 期（妊娠 5 か月から 6 か月、計 17 個の夢）、第 2 期（7 か月から 8 か月、計 13 個の夢）、第 3 期（9 か月から出産、計 10 個の夢）、第 4 期（産後 3 か月、計 15 個の夢）の 4 期に分けて吟味した。妊娠期に見る夢のなかの感情分類については、①怒り、②恐怖、③不安・心配、④悲しみ、⑤喜び、⑥不快・嫌悪、⑦驚き、⑧不明（不確定）という 8 つに分類した。その結果、第 1 期では不安・心配が 35.3%、喜びが 23.5%、驚きが 17.6%、不快・嫌悪と恐怖が 11.8%、第 2 期では不快・嫌悪が 30.8%、怒りが 15.4%、悲しみが 15.4%、喜びが 15.4%、恐怖と不安・心配と驚きが 7.7%、第 3 期では不安・心配が 40%、怒りが 20%、喜びが 20%、不快・嫌悪が 20%、悲しみが 10%見られた（産後の第 4 期では不安・心配が 60%、喜びが 20%、驚きが 20%見られた）。

2. 問題点の整理

前節では主たる先行研究について概観した（山根ら、2006 を参照）。ここではそれらの結果を参照しながら、妊婦の夢のなかに現れる感情を吟味するさいの問題点について整理したい。検討の直接資料はわれわれの手元にある夢で、それらは、①出産時 28 歳の初産婦の、妊娠 2 か月から 8 か月までの計 17 個の夢、②出産時 30 歳の初産婦の、受胎から出産までの計 98 個の夢、③出産時 26 歳の初産婦の、妊娠 5 か月から出産までの計 40 個の夢（原田、2006 の修士論文の付録に記載されているもの）である。また、武内（1982）の修士論文に付けられている夢と、的場（1998）の論文に記載されている夢も参照する。ただし、武内の夢はさまざまな初産婦・経産婦のものである。的場の夢は 1 人の初産婦のものであるが、妊娠 7 か月から出産までのものであり、また論文への記載上、夢内容はごく簡略化した形で記述されている。

2-1 妊娠期の区分の問題

約 10 か月にも及ぶ妊娠期をひとまとめにして論ずることは、(妊婦と非妊婦の夢を比較するといった場合以外には) あまり意味がないように思える。むしろ、妊娠期をいくつかに分けて、それぞれの時期においてどのような感情がみられるのかを吟味するほうが有益であろう。ちなみに、妊娠期の区分に関して花沢 (1977) は、①妊娠 2~4 か月の妊娠初期、②妊娠 5~7 か月の妊娠中期、③妊娠 8~10 か月の妊娠後期に分けているが、これは 1 つの参考となろう。これらの時期は週数からすれば、妊娠初期が 4~15 週、中期が 16~27 週、後期が 28~40 週となる (妊娠を週数で数える場合、最終月経の第 1 日目から 7 日間で 0 週となり、次の 7 日間で 1 週となる。一方、月数で数える場合には 0 か月ではなくて 1 か月から開始され、以後は 28 日単位で月数を重ねていく)。

2-2 感情の内容の問題

妊婦の夢のなかに現れる主な感情は一般に不安感であるとされている (武内, 1984, Maybruck, 1986)。しかしながら、Gottschalk-Gleser Anxiety Scale を用いて妊娠群 (初めて妊娠した女性たち) の夢と非妊娠群 (それまで一度も妊娠したことのない女性たち) の夢とを比較した Dagan et al. (2001) の研究によれば、両群の間に有意差は見いだされなかった。これはつまり、妊婦たちの夢が不安に満ちたものであるとは必ずしも言えないことを意味している。実際、前述した的場の研究でも妊娠 7 か月から出産までの夢のなかに「喜び」(満足する、安心する、楽しむなどを含む) が 35%見られ、原田の研究でも妊娠 5 か月から出産までの第 1~3 期を通して 20%前後の「喜び」(うれしい、楽しい、わくわくする、可愛い、愛しい、安心するなどを含む) が存在している。Blake & Reimann の質問紙調査でも妊娠に関する夢を見た妊婦のうち 53%の人が妊娠を喜ぶ夢を見ている。

われわれの夢資料でも、ある 30 歳の初産婦は、「同級生について酪農家の家に行くと、その女主人はにこにこして、すごく感じがいい。ショーケースを見たら中に白いピザがある。食べてみたいかと女主人が聞いたので、私はぜひ食べたいと答える。女主人は一切切れ切ってくれる。口に入れてみたらピザではなくてお菓子の、すごく甘くておいしい。すると、お腹のなかがぐるぐる動き出す。びっくりするほど元気な鼓動を感じる。お腹の赤ちゃんもよっぼどおいしいみたい、すごく動き出したと大声で言うと、女主人は作り方を教えてくれるという。厨房に入ったら、女主人はまずホワイトチョコレートを溶かして、そのなかにチョコレートを混ぜる。私は、チョコレートを混ぜて、どうして真っ白なのかと不思議に思う」という夢を見ている (妊娠 5 か月)。ここには、夢主が甘くておいしいホワイトチョコレートのお菓子を食べてお腹の赤ちゃんが元気に動き回るという、母子一体的な感動的な喜びが際だっている。

前節で見てきたように夢のなかにはもちろん不安・恐怖・嫌悪といった不快感情が現れるが、それら以外に「喜び」という快適な感情も入り交じっているため、慎重な吟味が必要となろう。

感情の内容は、夢の結末や、後述する感情の推移とも無関係ではない。夢のなかにはごく短い夢や断片的な夢もあるが、多くの場合おのおの夢は俗に「起承転結」と言われるようにストーリーを有している。そのため、1 つの夢のなかでさまざまな感情が移り変わることになる。妊婦の夢には「不安夢」「恐怖夢」が多いという言い方をした場合、それらの夢は一見不安や恐怖だけが満ち満ちているような印象を受ける。しかし、例えば夢のなかで洪水に襲われて必死で逃げる途中うまく小舟に救われて安堵するというストーリーの

場合、夢の結末部に焦点をあてると、これは「安堵の夢」ということになる。このように夢のストーリー、それも特に長いストーリーの場合には夢のどこの部分に焦点をあてるかによって感情のあり方が異なってくるので注意が必要である。

2-3 感情の分類の問題

武内と的場の研究はHall & Van de Castle (1966) の5つの感情分類を基礎にしているが、この5つのカテゴリーだけでは、妊婦のさまざまな感情をとらえるにはあまりにも大まかすぎるように思える。原田の7つ(「不明」を除く)でも少ないかもしれない。ちなみに、妊婦の夢の研究者であるPatricia Maybruckは1989年に*Pregnancy and Dreams*という本を出版しているが、そこでの感情(emotions)の大分類は、①anger(怒り)、②fear(恐怖)、③pain(苦痛)、④pleasure and love(楽しさと愛)という4つであり、Hall & Van de Castleのものよりも少なくなっている。逆に、岡田(2001)は、Plutchik(1980)やIzard(1991)らの感情分類を参考にして、①不安感、②緊張感、③恐怖感、④あせり、⑤嫌悪感、⑥悲しみ、⑦怒り、⑧驚き、⑨羞恥心、⑩幸福感、⑪うれしさ(あるいは楽しさ)、⑫希望(あるいは期待感)、⑬安堵感の13に分類している(岡田の調査研究の対象者は妊婦ではなくて大学生)。

ところで、さまざまな人々のさまざまな感情を計701個の夢資料に基づいて分類してみると(名島,2008)、①「幸せな」「大変すばらしい」「この上なく満足した」の群(カテゴリー名は幸福感)、②「わくわくした」「興奮した」の群(カテゴリー名は興奮)、③「楽しい」「うれしい」「気持ちいい」の群(カテゴリー名は楽しさ・喜び)、④「親しみのこもった」「なじみ深い」「いとしい」の群(カテゴリー名は親愛感)、⑤「ほっとした」「安心な」「くつろいだ」の群(カテゴリー名は安心感・落ち着き)、⑥「驚いた」「仰天した」の群(カテゴリー名は驚き)、⑦「困惑した」「あわてふためいた」「混乱した」の群(カテゴリー名は困惑・混乱)、⑧「不安な」「心配な」「落ち着かない」の群(カテゴリー名は不安・心配)、⑨「悲しい」「落胆した」「うつうつとした」「さみしい」の群(カテゴリー名は悲しみ)、⑩「怒った」「しゃくにさわる」の群(カテゴリー名は怒り)、⑪「恐ろしい」「ぞっとする」の群(カテゴリー名は恐怖)、⑫「不愉快な」「嫌な」「気持ち悪い」の群(カテゴリー名は不快・嫌悪)、⑬「焦った」「張りつめた」の群(カテゴリー名は焦り・緊張)、⑭「すまない」「申し訳ない」の群(カテゴリー名は罪悪感)、⑮「嫉妬している」「うらやむ」の群(カテゴリー名は嫉妬・羨望)、⑯「劣った」「恥ずかしい」の群(カテゴリー名は劣等感・恥)といったものになる。

ただし、夢を妊婦の夢に限定した場合、妊婦が夢のなかで赤ちゃんや子どもに対して抱く「愛しい(beloved)」とか「抱きしめたくなるほど可愛い(cuddlesome)」といった感情がみられる。赤ちゃんや子どもに対して「愛しい」「可愛い」といった感情を抱くことは母性の中核的な特質の一つではないかと思われる。しかし、Hall & Van de Castleのhappinessのカテゴリーにはこのbelovedやcuddlesomeといった感情は含まれていない。また、Maybruck(1989)のpleasure and loveのカテゴリーにも含まれていない。pleasure and loveのカテゴリーに入っているのは、happiness(幸せな気持ち・喜び)、contentment(満足感)、joy(喜び)、desire(欲情)、passion(熱情)の5つである。

妊娠期の夢のなかの感情を吟味する場合には、「愛しい」「抱きしめたくなるほど可愛い」といった母性的・母親的な感情を一つの重要なカテゴリーとして認識することが大切とな

るのではないかと思われる。今後の検討課題である。

妊婦の夢のなかには「ほっとした・安堵した (relieved)」という感情も少なからず見られるが、この relieved は Hall & Van de Castle では happiness のなかに含まれている。しかし、「ほっとした・安堵した」という感情を夢主が抱く直前には、夢主は一般に大変な緊張状態・不安状態にあるので、満足・うれしさ・喜びなどを特徴とする happiness からは独立させたほうがよいように思える。

「焦る (impatient)」も夢のなかで比較的好く見られる感情である。特に教育水準が高くそれなりの社会的地位・所属を得ている初産婦が妊娠した場合、妊娠（ならびにその後の育児生活）によってそれまでの社会的活動（仕事）ができなくなってしまうのではないかと、あるいは社会的活動が遅れてしまうのではないかとという強い不安や焦りが存在していることがある。山根（2006）が報告しているこのような事例、つまり臨時採用ではあるが高校の常勤講師を勤めていたある 27 歳の女性は、切望していた教員採用試験の受験を妊娠によって断念し、さらには高校教師の仕事からも一時的に遠ざからざるをえなかったのであった。

妊婦の夢のなかに「焦り」が存在している場合、夢主が夢のなかで体験した「焦り」を自己吟味したり、夢調査者との間で相互に吟味したりすることによって、「母親としての自分」「家庭人としての自分」「社会人としての自分」といったさまざまな自分を再考するきっかけとなることも少なくない。このように、「焦り」が妊娠期の女性の心理における大きな要素を占めていることを考えると、「焦り」は重要なカテゴリーとなろう。

2-4 1つの夢のなかにおける感情の推移の問題

先行研究ではまったくと言ってよいほど触れられていないが、手元の夢資料を検討してみると、1つの夢のなかでさまざまな感情が複雑に移り変わっていることが少なからずある。以下、3つの夢を提示する。

「韓国行きの飛行機のなかで私はスチュワーデスとなって、わくわくして、楽しく仕事をしているが、韓国では、韓国人の家でキムチばかり食べさせられる。で、お腹の子どもが心配になる。夫に SOS をしなければなどと考えるが、国際電話のかけ方が分からなくて困る。そうしていたら、お腹が痛くなって目が覚める」(25 歳、女性) という夢。ここでは、「興奮→楽しさ→心配→困惑→苦痛」といった具合に感情が推移している。

「道でダイヤモンドをくれるという変なおじさんに会う。意味が分からないので、怖くて走って逃げる。そのおじさんも追ってくる。お腹の大きい私は必死で走る。途中でコロッケ屋さんに助けを求めて入るが、その人も仲間だと思ってまた走る。流産しないかとずっと不安。途中でかっこいい男性に助けをもらい、ああ、助かったと安心したところで目が覚める」(25 歳、女性) という夢。ここでは、「恐怖→不安→安堵感」といった具合に感情が推移している。

「私は分娩台上がっていて、長くなるかもしれないと必死になっている。しかし、案外と楽に赤ちゃんが生まれる。男か女か分からない。すぐに退院させられて、実家のようなところにいる。赤ちゃんが泣き出す。お尻を触ったら濡れている。私は慌ててデパートにベビー用品を買いに行く。デパートのなかを焦って探す、なかなかベビーコーナーが見つからない。やっと見つけてほっとする。紙おむつやほ乳瓶や粉ミルクをかごに入れる。赤とピンクの格子柄の、赤ちゃんの洋服もかごに入れる。家に帰って、赤ちゃんのおむつ

を何とか取りかえる。それから、買って来た服を着せて抱っこする。母がうれしそうに可愛い、可愛いと言っている。私も赤ちゃんが可愛くてたまらない。そこで目が覚める」(30歳、女性)という夢。ここでは、「不安と緊張→安堵感→焦り→安堵感→可愛さ」といった具合に感情が推移している。

現時点では明確に述べられないが、このような感情の激しい推移は妊娠期という動乱の時期の反映かもしれない。あるいは、妊娠の各時期によって感情の推移が激しかったりそうでなかったりするのかもしれない。ともあれ、妊婦の夢の場合、1つの夢のなかにおける感情の推移という点をきちんと押さえておくことが必要となろう。

2-5 夢内容の選択の問題

「妊娠期における夢」と言う場合には妊婦が妊娠期において見るすべての夢を指しているが、「妊娠・出産・子育てに関する夢」と言う場合には、妊婦が夢のなかで流産したり出産したり、夢のなかで赤ちゃんや子どもを育てたりしているような夢のことを指している。妊婦の夢のなかの感情という場合、妊娠期において見るすべての夢のなかの感情を吟味すると同時に、「妊娠・出産・子育てに関する夢」だけに限定して、それらの夢のなかの感情を吟味する必要がある。

ただし、その場合、「妊娠・出産・子育てに関する夢」の定義づけが問題となろう。例えば、夢のなかで人間ではなくて動物を出産したり、小動物(例えば子猫)をかわいがったり、植物を育てたりしている場合、これらを「妊娠・出産・子育てに関する夢」のなかに含まれるかどうかの問題となってくる。

妊娠期間中に合計98個の夢を見た30歳の女性の場合、以下のような動物が夢のなかに現れている。

①私を狙っている大きくて黒いスズメバチ(妊娠2か月:その姿はまったく見えないがイメージで分かる)、②黄色いインコの子に襲いかかろうとする黒っぽい猫(妊娠4か月:従姉の女の赤ちゃんがインコの子どもに変わっていた)、③私と夫に甘えてくる小さなトラ猫(妊娠5か月:トラ猫は玄関から家のなかに入ってきた)、④病気にかかっているような白い猫(妊娠6か月:この猫は以前実家で飼っていたが病死した)、⑤2匹の黒蛇と青と赤のまだら模様のある3匹の白蛇(妊娠6か月:白蛇は私のお腹の上を這って、黒蛇が入っていった押入のなかへ入っていった)、⑥体育館のなかにいる牛や馬や象などのたくさんの動物(妊娠8か月:ノアの方舟のような体育館)、⑦つながれた黒い熊とそのまわりで吠える茶色の日本犬(妊娠9か月:熊と日本犬はすり鉢状の子供の遊び場にいた)、⑧私に向かってくるティラノザウルスと小型で獰猛な恐竜(妊娠9か月:私は必死で逃げた)。

これら8つのうち①のスズメバチは姿そのものは見えていなかったの除外すると、98個のうち7個の夢に動物が出現したことになる。この7個の夢のなかでは、特に③の「小さなトラ猫」が問題となる。夢のなかでは、アパートの玄関のドアを風通しのために開けておいたらその隙間からトラ猫が入ってきて、夢主やその夫に甘える。大変可愛い。夢主と夫はトラ猫をお風呂に入れて体を洗ってやり、そのあと夢主がトラ猫をタオルで拭いてやると、体が乾いたトラ猫はまた夢主に甘えてくる。ここには、「甘えてくるトラ猫」と「甘えてくるトラ猫を可愛がる夢主」という親和的な関係が見られる。また、トラ猫を媒介とした夢主と夫との親和的な関係もうかがえる。

このトラ猫についての夢主自身の連想は、「子猫を飼いたいとずっと思っている。しかし、

妊娠中は感染症にかかるから、猫はあまり触ったりしないほうがいい。夢のなかで夫と2人で子猫をお風呂に入れていたので、赤ちゃんの象徴かもしれない」「6日前の検診で、赤ちゃんが頭からお尻まで9cmくらいに大きくなっていて、エコーで手足をゆらゆらと動かしている姿を見たからかもしれない」というものであった。

このように見てくると、夢のなかで夢主に甘える小さなトラ猫は、夢主のお腹のなかにいる胎児と重なり合っている。どちらも夢主にとって可愛らしい、夢主の慈しみの対象である。

②の黄色いインコの子は、夢のなかではもともと夢主の従姉の赤ちゃんなので、夢主自身の赤ちゃんではない。その他の夢のなかの動物たち（白い猫・黒蛇・白蛇・牛・馬・象・黒い熊・日本犬・恐竜）は、夢主の赤ちゃんとほとんど重なっていない。

結局このようにしてみると、夢のなかに動物が現れた場合、その動物が夢主の赤ちゃんと重なり合っているのかどうかは、夢のなかでの動物と夢主との関係性や、動物についての夢主自身の連想などを参考にして決定していくということになる。

2-6 顕在感情と潜在感情の問題

顕在感情とは夢主が夢のなかで実際に抱いた感情である。一方、潜在感情とは、夢主が夢のなかで実際には体験しなかったが、しかし、夢のなかのさまざまな構成要素のなかのどれかに隠喩的な形で隠されているような感情である（名島，1999，2003）。潜在感情の例を挙げれば、夢のなかの「燃えさかる火」が現在の激しい怒りや忘れ去った過去の情熱を、夢のなかの「ごうごうと流れ落ちる滝」がおびただしい涙（つらさ）を、夢のなかの「激しい嵐」が心のなかの混乱や狼狽を表していたりする。

（妊婦のパーソナリティにもよるが）感情のなかでも特に不安・怒り・恐怖といった否定的感情は妊婦によって否認ないし抑圧される傾向がうかがえるので（Maybruck, 1989 その他）、これらの否定的感情は潜在感情として夢のなかの構成要素に隠されている可能性が強い。ともあれ、妊婦、それも特に初産婦の心のなかにはさまざまな感情が陰に陽に渦巻いているので、顕在感情と潜在感情とを合わせて考えることは、妊婦の心の世界の理解を深めてくれるものである。

潜在感情は夢分析家（夢調査者）の側の恣意的な解釈によって決定されるものではない。潜在感情を発見するには、夢主自身が潜在感情を発見できるような「潜在感情質問」を行う必要がある。この「潜在感情質問」を行うためには、質問紙的な調査ではなくて、夢主自身と実際に面接して、1つ1つの夢について綿密な質問を行っていく必要があり、かなりの時間を要することになる。

2-7 夢の調査方法の問題

夢の調査を行う場合、大別すれば、①質問紙法（調査者が予め用意しておいた質問紙を郵送か手渡しで配布して夢主に記入してもらう）、②日誌法（夢主に「夢日記」をつけてもらう）、③面接調査法（夢主と面接して夢を詳細に聴取する）の3つがある。理想的には③の面接調査法が望ましいが、夢主が夢を見るたびごとに夢主と面接して夢を聴取するといったことは、（夢主が調査者の近親者でないかぎり）現実的にはきわめてむずかしい。①の質問紙法は、質問内容や質問項目にもよるが、一般に夢の記述が簡略化されがちである。

最善の方法として考えられるのは②と③の組み合わせ、つまり、普段の日常生活のなか

で夢主に夢日記をつけてもらいながら、調査者は月に何回か夢主と面接して、夢日記に記された夢の一つ一つについて詳しく聞いていくというやり方である。特に、夢主が夢のなかで体験する種々の感情については、実際に面接して確認しておくことが大切となる。もちろん夢主に夢日記をつけてもらいたい、夢のストーリーだけではなく夢のなかの感情もしっかりと書き記すよう夢主に頼んでおくわけであるが、それでも微妙な感情の綾や感情の推移については、夢主が書き落としていることも少なくない。その上、夢主はすべて妊婦であり、突発的な心身の変調によって夢の記述がおろそかになってしまうことも少なくない。それだけに、夢を蒐集するさいには細やかな配慮が必要となる。

おわりに

妊婦の心の世界やパーソナリティを理解するさいに、そして何よりも、(これは特に初産婦の場合にあてまることであるが)女性が母親になっていくという心的プロセスを理解するさいに、夢主の感情は重要な手がかりとなるものである。

われわれは本論文において、妊娠期の夢のなかの感情を吟味するさいの問題点について整理してみた。その結果、妊娠期の時期区分、感情の内容、感情の分類、感情の推移、夢内容の選択、潜在感情、夢の調査方法という7つの問題点が浮かび上がってきた。妊娠期の夢のなかの感情を吟味する場合、これらの問題点をどのように考えていくかが重要となろう。

文献

- Ablon, S. L. (1994) The usefulness of dreams during pregnancy. *International Journal of Psycho-Analysis*, 75, 291-299.
- Blake, R. L. Jr. & Reimann, J. (1993) The pregnancy-related dreams of pregnant women. *Journal of the American Board of Family Practice*, 6(2), 117-122.
- Dagan, Y., Lapidot, A. & Eisenstein, M. (2001) Women's dreams reported during first pregnancy. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 55(1), 13-20.
- Gillman, R. D. (1968) The dreams of pregnant women and maternal adaptation. *American Journal of Orthopsychiatry*, 38, 688-692.
- Hall, C. S. & Van de Castle, R. L. (1966) *The Content analysis of dreams*. New York: Appleton-Century-Crofts.
- 花沢成一 (1977) 妊産婦の不安に関する心理学的研究. 日本大学人文科学研究所研究紀要, 19, 107-125.
- 原田梨沙 (2006) 妊娠・出産・育児期における女性の心理的プロセス—ある初産婦の夢分析から. 山口大学大学院教育学研究科修士論文.
- Izard, C. E. (1991) *The psychology of emotions*. New York: Plenum Press.
- 的場みぎわ (1998) 妊娠・出産・育児過程における女性の夢の研究. 箱庭療法学研究, 11(2), 85-92.
- 的場みぎわ・森谷寛之 (1998) 育児初期の女性の夢の研究. 鳴門生徒指導研究, 8, 126-137.
- Maybruck, P. (1986) An exploratory study of the dreams of pregnant women. *Dissertation*

- Abstract International*, 47/01-B, 362.
- Maybruck, P. (1989) *Pregnancy and dreams: How to have a peaceful pregnancy by understanding your dreams, fantasies, daydreams and nightmares*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, Inc.
- Maybruck, P. (1990) Pregnancy and dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 143-151.
- 名島潤慈 (1980) ある自殺未遂者の心理療法. 上里一郎編, シンポジウム青年期 2 自殺行動の心理と指導, ナカニシヤ出版, 196-223.
- 名島潤慈 (1999) 夢分析における臨床的介入技法に関する研究. 風間書房.
- 名島潤慈 (2003) 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析. 誠信書房.
- 名島潤慈 (2006) 能動的夢分析と夢の機能について—山根論文「妊娠・子育て期における夢の機能」についてのコメント. 山口大学心理臨床研究, 6, 42-48.
- 名島潤慈 (2008) 夢のなかに表れる感情の分類. 山口大学心理臨床研究, 8, 3-12
- 岡田 斉 (2001) 夢想起における感情別体験頻度. 文教大学人間科学部 人間学研究, 23, 45-54.
- Plutchik, R. (1980) A general psychoevolutionary theory of emotion. In R. Plutchik & H. Kellerman (Eds.) *Emotion: Theory, research, and experience. Vol. 1. Theories of emotion*. New York: Academic, 3-33.
- 武内珠美 (1982) 妊産婦が母親になるまでの心理的プロセスに関する研究. 広島大学大学院教育学研究科修士論文.
- 武内珠美 (1984) 妊産婦に関する夢の研究—夢に表わされた情動と夢内容について. 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.
- 鑓幹八郎 (1979) 夢分析の実際—心の世界の探求. 創元社.
- Van de Castle, R. L. (1994) *Our dreaming mind*. New York: Ballantine Books.
- Van de Castle, R. L. & Kinder, P. (1968) Dream content during pregnancy. *Psychophysiology*, 4, 375 (abstract) .
- 山根 望 (2006) 妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から. 山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根 望・河合可南子・八田有加・佐藤直弘・渡邊ふくみ・名島潤慈 (2006) 妊娠と出産に関する夢研究の展望. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 22, 193-204.